

【日時】 令和5年10月20日（金）午前10時～午後12時15分

【場所】 多治見市役所駅北庁舎4階第1・第2会議室

【参加者】 最終頁名簿のとおり

【内容】 1 教育長挨拶

2 第3次多治見市教育基本計画について

- (委員) 第3次多治見市教育基本計画について、学校への周知をどのように行っているか。
- (事務局) 今年度当初、教育基本計画の冊子を学校に1冊ずつ、全教員にダイジェスト版を配付している。
- (事務局) 全幼稚園・保育園、小学校、中学校で年1回実施する教育長訪問時に教育基本計画について丁寧に説明している。各学校の校長は、毎年度学校運営方針を明示し、学校経営を行っており、その学校運営方針の一角として教育基本計画のめざす子ども像がある。各教員は、日常の仕事と教育基本計画の内容が直接結び付いていないこともあると思うが、現在、各教員にダイジェスト版を配付することに加えて、説明をする機会をつくっているところである。
- (委員長) 引き続き普及・啓発をお願いします。
- (委員) 自己有用感という言葉は、良い言葉であり、本計画の説明で言葉の意味を理解することができた。
- 教育基本計画の策定にあたり、議論した内容を教えて欲しい。
- (委員長) 本計画の目玉となった「挑戦」については、挑戦することをためらう子どもがいることも考慮し、何度失敗してもよいという意味を含めることや子どもの多様性も尊重する意味を込めて、ポンチ絵にある大きな木の周囲に多様な木を描くことを要望した。
- (委員) 子ども達が毎日朝ごはんを食べるような取組を計画に含めて欲しかったが、朝ごはんを食べない理由が、家庭の状況であるのか子どもの資質であるのか理由も多々あること、福祉的観点に当たること等を踏まえて取組としては掲げないこととした。計画の成果目標として、毎日朝ごはんを食べる子の割合を令和9年度までに100%としてあげている。
- (委員) 「小さくても確かな自信（自己肯定感）」や「多様な課題に応じた支援の推進」に共感した。子どもを育てることは、小さなことの積み重ねであると思う。本計画は、家庭、学校・園、地域が連携して支えていることを大事にしていることが伝わる。
- (委員長) 本計画の記述については、市民に分かりやすい表現にすることに留意した。

3 多治見市教育行政報告（令和5年度前期）

(0) 令和5年度前期の主なできごと

- (委員) 「夏休みの算数学習会」に携わっていた教育支援員は、退職校長であると聞いたが、何名で対応していたか。また、算数学習会には子ども達が自主的に参加したのか。担任等が勧めたのかどちらか。
- (事務局) 教育支援員4名で2名ずつ2会場に分かれて午前と午後の2時間単位で支援にあたった。募集は、タブレット端末を利用し、保護者の意向もあると思うが、子ども達の自主的な参加を条件とした。募集方法については、今後検討していきたい。

(委員長)	何日開催したか。
→ (事務局)	お盆をはさむ前後 14 日間とした。掛け算・割り算や文章題等、テーマ別に日程を組んだ。
(委員)	不登校の要因の一つが学力不振ということであるが、どのくらいの割合か。
→ (事務局)	令和 3 年度に初めて小学校の不登校の要因に学力不振があがった。一番多いのは無気力・不安であるが、背後には学力不振もあるのではないかと思う。この推察のもと、不登校対策として小学校中学年に教育支援員を配置することになった。
(委員長)	中学校の学力不振の割合は、小学校に比べてどうか。
→ (事務局)	中学校の方が若干多い。また、無気力・不安も多くなっている。
(委員長)	教員が回答しているのか。
→ (事務局)	保護者からの聞き取りを参考としている。
(委員長)	コロナの影響もあるかと思うが、新しい学習指導要領が難しくなっているため、学力不振についての注意が必要である。

### (1) 体力・学力を高める教育・保育の推進

(委員)	子ども達が「挑戦」する機会をどのようにつくっているかが本計画の重要な点であると思う。その工夫や評価の仕方を教えて欲しい。
→ (事務局)	例えば、ある 1 つの種目を設定し、全学校で挑戦し、競い合うような取組である「たじみ city cup」の実施を考えている。岐阜県でも同様な取組はあるが、集団で取り組む種目が多いため、個人でも自分に合った取り組みができるように考えている。学習面では、個別最適な学びを実現するため、授業中、自分で選択して学ぶことができるように進めている。その際、ICT は非常に効果的で、例えば、授業の最後に岐阜県の「GIFU Web ラーニング」を行い、個々に合った問題を解くような時間を設けている。
(委員)	日常生活の中で、担任の先生が子ども達を褒めたり、挑戦する機会をつくったりすることがとても重要であると思う。
(委員長)	第 2 回の評価委員会では、教員が子ども達の挑戦を支えているような実践例を報告して欲しい。この委員会では、全国学力・学習状況調査の結果だけではなく、多様な実践についても評価の対象としたい。
(委員)	夏休みの間、ICT 教育推進員はどのような取組をしているのか。
→ (事務局)	市の研修や各学校の研修で講師を務めている。また、夏休みの算数学習会で、教育支援員と一緒に支援を行うこともあった。
(委員)	市内の農産物を活用することはよい取組であるため、費用は高くなることも予想されるが今後も継続して欲しい。市内で玉ねぎやピーマンが収穫できることを子ども達は知り、どのような変化があったか。
→ (事務局)	市内の農産物を活用していることについて、子ども達がどのように感じているかは分からないが、美味しいと食べてくれており、それを励みに手作りにこだわった調理をしている。市内の農産物で学校給食の 8,000 食を賄うことは簡単ではないが、今後も努力していく。
→ (事務局)	農業に対する起業の希望はあり、産業観光課が優遇措置等を設け育成し、学校給食と結び付けるアイデアはあるが、安定して大量な農産物を出荷することは難しいことである。今後、経済部局と意見交換をしていく。また、子ども達は、給食の時間に食材についての

	説明を放送で聞くので、市内農産物を活用している場合も説明がされていると思う。
(委員)	子ども達が農産物に愛着をもてたらよいと思う。また、学校給食のマーケットは大きい ため、多様な農産物は無理であるが、多治見の特産品を決めるとよい。また、陶磁器もか らめた食に関する取組ができるのではないかなと思う。今後も連携して市内の農産物を増や してもらえると有難い。
(委員)	部活動は任意加入となっているのか。ジュニアクラブ活動費については、市、学校、保 護者負担とどのような負担割合になっているのか。
→ (事務局)	多治見市では、保護者主体のジュニアクラブを約 20 年前から行っている。ジュニアクラ ブの運営は保護者主体となっており、市からの補助金はない。優遇措置として、市 の施設は無料で使用ができることになっている。ジュニアクラブの加入者の減少により運 営費が減少していることは、課題として認識しており、今後の対応について検討が必要で ある。部活動の加入については、原則として全員加入である。ただし、学校によっては、 校外活動部であったり、習い事を優先したり、柔軟な体制をとっている。また、県からの 情報、東濃地区の情報を収集し、毎月 1 回関係機関で検討会議を行っている。
(委員)	部活動は授業の一環となっているのか。テニスコートの管理はどかがやるのか等、保護 者に説明する機会があるとよいと思う。
→ (事務局)	文化スポーツ課と検討会議を行っておりますので、いただいた意見について情報共有す る。
(委員長)	食育に関する成果目標「市内農産物の活用回数」「子どもや保護者へ向けた食育講座の 実施回数」については、今年度、超過達成できる見込みであるため、新たな成果目標を設 定することについて、事務局で検討してもらいたい。

## (2) 社会性と豊かな心を育む教育の推進

(委員)	地元の企業と連携し職業体験を実施したり、多治見市の産業に関わる土曜講座を開催し たりしてもらい有難い。子ども達も喜んでいて聞いている。子ども達が地場産業に興味 を持つ貴重な機会となるため続けていただきたい。
(委員)	地域の文化財を国語や社会と結び付けて横断的な学びができていたことを聞き感心した。 また、各中学校の生徒会役員が集まる連合生徒会では、集まった子ども達が初めて会った のにも関わらず、意見を出し合い、仲良くできた聞き、これまでの対話的な学びの成果 が出ているのではないかなと思った。

## (3) 家庭、学校・園、地域の連携の推進

(委員)	幼少期の温かい支援が素晴らしいと思う。ボランティアを行いたい子ども達がたくさん いることに喜びを感じた。
(委員)	「親育ち 4・3・6・3 たじみプラン」はとてもよい。父親への支援もあるとよい。
(委員)	父親にとっては、どのような支援があったらよいか。
→ (委員)	父親限定、親子で参加といった募集内容であったり、パパも大歓迎というようなフレー ズが募集内容に入っていたりすると参加しやすい。また、会場に男性職員がいると心強い。
(委員)	青少年まちづくり市民会議の催しにボランティアがたくさん参加している。とても、良 い活動である一方、青少年まちづくり市民会議を担っている地域の方々が高齢化している

	という課題がある。何かよい方法があるとよい。
→ (事務局)	青少年まちづくり市民会議の会議でも後継者の問題があがっている。課題としては認識しているが難しい問題である。

#### (4) 多様な課題に応じた支援の推進

(委員)	特別支援教育について、先進的に実施していただき感謝する。 不登校について、どのように捉えているのか。
→ (事務局)	不登校の要因は、以前のように仲間関係、教員との不和が要因となることは減っており、保護者と子どもの不和、ゲーム依存等、多種多様となっている。学校には来て欲しいが、人との関わりが持てることが重要であると考え、居場所づくりを推進している。家に閉じこもり誰とも関わらない状況とならないよう、公民館や地域の交流センター等の学校以外の場所との連携を図りながら居場所づくりを進めていきたい。
(委員)	不登校の子どもをもつ保護者への情報提供を強化して欲しい。
(委員)	さわらびが不登校の子どもを持ち味を伸ばせる場所であったり、学校にも家庭にもいたくない子どもの居場所になったりするために、ソファ等々を新調したり、明るい環境にしたり、新しい本を購入したりして、居心地のよい空間にするよう整備するとよい。また、相談ができない保護者の子どもにたいしては、どのように支援したらよいか。
→ (委員長)	子どもは学校に行きたくない理由が分からない場合や、親には本心が話せない場合もあるため、親や教員でもない第三者の団体が関わるのがよい。NPO法人や夜間中学等、不登校に関わる団体の仕組みづくりが今後さらに進んでいくと思う。今後、5年間で本計画の取組を実施しつつ、次の仕組みづくりについても検討が必要である。
(委員)	不登校の各要因の割合を数値化して第2回の評価委員会で示して欲しい。
(委員)	いじめについては、いじめられた子が嫌だと言えないことが原因か、いじめた子が嫌だと言われても行うことが原因かによって対処方法も違う。自分の思いが表現できるような子どもになるとよい。

#### (5) 学びを支える教育環境の充実

(委員)	教員のどのくらい割合が仕事に満足しているか。
→ (事務局)	満足している割合は分からないが、やりがいについては、特に女性の教員が高い。全体的にみると上司からの支援についての割合は比較的高い。
(委員)	項目ごとの割合が分かるとよい。
(委員長)	高ストレス者の割合が令和元年度 7.10%から令和5年度 12.15%に増えている。原因は何か。実施時期を11月から7月に変更したことが影響であるか。
→ (事務局)	実施時期を変更した影響であるかは分からないが、毎年ストレスを抱える方が増えてきている。コロナの感染予防に対する対応についてのストレスもあると思う。高ストレスの方には受診の案内をしている。今年度は1名受診をした。
(委員)	残業時間が多いことが必ずしもストレスの原因ではない。ストレスの原因が分かるとよい。

(委員)	各学校のストレスチェックの回収率に開きがあるが、原因は何か。
→ (事務局)	長期の病気休暇や育休休暇中で実施しない職員がいることが考えられる。
(委員)	本計画は、丁寧に子ども達を育てる内容になっており、教員の働き方も明記し、教員に対する配慮も伺える。是非、教育委員会の方々の働き方改革も進めて欲しい。

#### 4 意見交換

なし

#### 5 その他

事務局連絡

#### ● 多治見市教育行政評価委員会 委員等名簿（敬称略）

委員

名前	所属・役職	その他
石井 拓児	名古屋大学教育学部教授	委員長
安田 悦子	元笠原小学校校長	副委員長
鈴木 耕二	会社役員	
中澤 香代	元教育委員	
三和 義幸	多治見西高校職員	